

連携教育通信

令和5年11月 2日
 中野区教育委員会指導室
 就学前教育推進担当
 中野区中野4-8-1
 中野区役所 5階
 電話 03(3228)5589

中野区合同研究「教育・保育部会」「運動遊び部会」特集

令和5年度も中野区内の就学前教育・保育施設職員対象に中野区合同研究を行いました。

「教育・保育部会」「運動遊び部会」2つの部会で5月から10月まで各部会5回ずつ実施し、その中で5月の講義の会と10月の報告会は合同で行いました。今年度は特にグループでの学びを大切に、日常の保育・教育での実践の方法や悩みを共有して視野を広げ深めて進めてきました。

オプションとして小学校にもご協力いただき、1年生の体育と国語の授業参観も実施しました。

今号では参加研究生の学びの様子をご紹介します。

<目的>

実践的研究をととして区内の就学前教育・保育施設の連携・相互理解を推進し、中野区における就学前教育の質の向上に資する。

	<教育・保育部会>	<運動遊び部会>
テーマ	「幼小接続期（5歳児10月～3月）の育ちを考える」	「就学前に経験したい運動遊び～限られた空間を利用して～」
講師	和洋女子大学 人文学部 子ども発達学科 准教授 小山 朝子 先生	白百合女子大学 人間総合学部 初等教育学科 教授 石沢 順子 先生
場所	中野区立教育センター	中野区立教育センター・小学校体育館

教育・保育部会

<研究テーマについて>

・中野区では生きる力の基礎となる生活習慣や社会性を身に付けるため「中野区就学前教育プログラム」や「中野区運動遊びプログラム」を活用し、子ども達の発達の特性に配慮した教育・保育を推進しています。また、小学校への接続を見据えて「中野区就学前教育プログラム」を活用するとともに「アプローチカリキュラム」や「スタートカリキュラム」などの実施、保育園幼稚園等の合同的な研究を進め、就学前教育の質の向上に取り組んでいます。その中で保育者は小学校との発達や学びの連続性を重視した教育・保育を推進し、小学校に円滑に接続できるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した教育・保育が課題となっています。そこで、今年度は「幼小接続期（5歳児10月～3月）の育ちを考える」とテーマ設定し、自らの教育・保育を振り返りながらアプローチカリキュラムをどう提案していくか研究に取り組みました。

<研究の方法>

①講師の先生の講義を受ける。②5歳児の現在の姿、保育の実践を振り返りながら、グループワークで共有し、考察する。③事例の書き方・事例用紙の枠の使い方の指導を受ける。④グループのアドバイス、講師の指導を受け学び合い、自身の保育を多角的に振り返り、実践する。⑤事例の書き方・分析の仕方を学んだところで、事例を加筆修正する。⑥事例用紙の「提案：10月～3月に向けて」の書き方について指導を受け、目指す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をあげて自らの保育のアプローチカリキュラムを作成する。⑦事例について研究生同士ポイントを伝え合う。

講義



グループ協議



講師による
アドバイス



運動遊び部会

<研究テーマについて>

・体づくりの運動系には「体ほぐしの運動遊び」「多様な動きをつくる運動遊び」があります。「体ほぐしの運動遊び」は技術の向上を目指すのではなく、手軽な運動遊びを行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようにしています。幼児期の運動遊びは「体ほぐしの運動遊び」を主としています。中野区の就学前教育・保育施設の中には、運動遊びを実施する空間を確保することが難しい施設もありました。そこで「就学前に経験したい運動遊び～限られた空間を利用して～」と題し、遊びの中で楽しく体を動かす習慣がつくよう子どもたちが「またやりたい」と思える環境づくりや働きかけの工夫をグループで出し合い、自園の環境にアレンジしながらの研究に取り組みました。

<研究の方法>

①講師の先生の講義を受ける。②運動遊びを取り入れることの課題や工夫について討議するとともに、研究生が自身の保育を振り返る。今後どのような遊びの環境作りをすればよいか新たな視点をもつ。③担当年齢クラスでグループに分かれ、グループごとに共通の視点を決めて取り組む。④机上の研究だけでなく、体育館での実技の時間も設定し、工夫しながら楽しめる遊びについて体験する。⑤学んだ遊びやグループ討議で得た遊びのヒントなど、自園で検証し、事例を作成する。⑥各自の事例を基に、さらに検証や考察を重ね研究を深める。



講義



グループ討議



実技



報告会 <10月24日 両部会合同 >

合同研究報告会を両部会合同で行いました。研究生42名を7グループに分け、それぞれがグループ内で自身の事例を報告しました。

「教育・保育部会」は、事例報告に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」に着目し、研究生自らのアプローチカリキュラムを作成してみました。事例のエピソードを報告すると、同じ年齢クラス担任をしている研究生からは悩みに共感する声も上がりました。

「運動遊び部会」の事例報告では、遊びに使う道具や子どもたちの取組の様子をプリントして見せながら報告する研究生もいて、「園に戻ったらすぐにやってみようと思う。」という感想や、風船にビニールテープを巻いたものを手にし、「こんなに弾むボールになるなんて、ボールを怖がらずに遊びの導入ができる。」という声も聞かれました。

今回は報告の後に、一緒に研究をすすめてきた部会の人たちと「振り返り」の時間も設定し、学びの共有にもなりました。研究生の中には「来年度も参加したい」との声も聞かれました。



<オプション>小学校授業参観

<10月3日 西中野小学校・体育> <10月16日 令和小学校・国語>

小学校に協力いただき、研究生の希望者が授業参観を行いました。45分の間同じ授業を参観するのは初めての研究生が多く、先生の声かけや子どもたちの様子に熱心にメモをとっていました。授業参観の後は、授業を行った先生とお話する時間もあり、積極的に質問が出されていました。

体育の授業は「たからとりおに」で、授業の中で友達のよかったところを発言する「ほめほめタイム」がありました。

国語の授業は「まちがいさがし」で隣の席の友達やクラスの友達と答え合わせをする時間もありました。

友達との関わりの部分でも就学前教育・保育施設の研究生は学びの多い時間になりました。「今後も続けてほしい」という感想を多くの参加者からいただきました。

